

別表 相観植生図凡例一覧表 (1/3)

大区分	相観による植生区分	
	() 内には細分を記入	優先種による群落の細分 (主な例)
森林	[自然林]	
	常緑針葉樹林 ()	ハイマツ林、イヅマツ・トマツ林、アカマツ林 オシラビソ・コマツガシ林、ウラジロモミ林 ヒノキスナロ林、ヒノキ林、クハ・ヒノマツ林 アカマツ自然林、モミ林、ツガ林、クロマツ自然 林、コウヤマキ林、スギ林、スギ林、リュウキュウ マツ林、ナギ林
	落葉針葉樹林 (カラマツ林)	カラマツ林
	落葉広葉樹林 ()	ダケカンパシ林、ブナ林、イゾイタヤ・ツナギ林 サワグルミ林、シオジ林、ハルニレ林、 ヤナギ・ヤマハシノギ林、ハシノギ・ヤチダモ林、 イヌシデ・アカシデ自然林、クキ林、ブナ・ミズ ナラ林、ミズナラ・カシ林、フサギ・クワシ林、 クヌギ・コナラ自然林、オハシヤブシ林、 カエデ林、オシマザシ林、ヤナギ低木林
常緑広葉樹林 ()	マサキ・トハラシ林、モクダチハナ・セキモンノギ林 ウラジロカシ林、イヌノキ・ウラジロカシ林 アカシシ林、アラカシ林、マテハシイ林 イチイガシ林、シラカシ林、コジイ林、 スタジイ林、オキナウラジロカシ林、クワシ林 ウハシガシ林、ハマビシ林、ヤシ林、 マンゴローブシ林、ガシ・ユマルシ林、アカシシ林 ハスノハキリ・モクダチナシ林、シイ・カシ萌芽林 キノコシ林、オハシノギ林、 リュウキュウマサキ・ナガシバ・チヨウジシ林	

別表 相観植生図凡例一覧表 (2/3)

大区分	相観による植生区分	
	() 内には細分を記入	優先種による群落の細分 (主な例)
森林	[半自然林]	
	常緑針葉樹林 ()	アカマツ林、クロマツ林
	落葉広葉樹林 ()	イヌシデ・アカシデ林、クリ・ミズナラ林、シラカバ林、クヌギ・コナラ林、オオハシバシバ林、アカカシ林、ニセアカシヤ林
	[人工林]	
	常緑針葉樹林 ()	トマツ植林、エゾマツ植林、ウラジロモミ植林、ヒノキスナロ植林、ヒノキ植林、アカマツ植林、クロマツ植林、スキ植林、リュウキュウマツ植林
	落葉針葉樹林 ()	カラマツ植林
	落葉広葉樹林 ()	サクラ植林、クヌギ・コナラ植林、ヤマハシバシバ植林、ニセアカシヤ植林、モクマツリ植林
常緑広葉樹林 ()	ガジュマル林、ヤブツバキ植林、クスノキ植林、マテハシヤ植林	
	竹林	

別表 相観植生図凡例一覧表 (3/3)








大区分	相観による植生区分	
	括弧内には右欄細分を記入	優先種による群落の細分 (主な例)
草原・ 雑草群落	自然草原 ()	ササ草原、シバ草原
	半自然草原 ()	ササ草原、ススキ草原、シバ草原
	人工草原 ()	牧草地、ゴルフ場、スキー場、採草地
	湿生草原 ()	高層湿原、中層湿原、低層湿原 河辺草原
	雑草群落 ()	ヨモギ群落、セイタカアワダチソウ群落
	伐跡地	
	緑の多い住宅地・公園等	
	その他 ()	塩沼地、砂丘植生、隆起カルデラ群落 海崖草原、

様式 相観植生区分一覧表

表示番号	相 観 植 生 区 分	相観植生区分に含まれる現存植生図の凡例
(例) 1	常緑広葉樹林 (シラカシ林)	シラカシ群集(60900A) シラカシ・ケヤキ屋敷林(65700)
2	" (スダジイ林)	スダジイ・ヤブコウジ群集 (61301B)
3	常緑針葉樹林 (アカマツ林)	アカマツ・ヤマアザミ群集(71001B)
4	" (スギ植林)	スギ植林(90103C)
5	" (クロマツ植林)	クロマツ植林(90102A)
6	落葉広葉樹林 (クヌギ・コナラ林)	クヌギ・コナラ群落(70101C)
7	竹林	モウソウチク林(90700C)
8	雑草群落 (セイタカアワダチソウ群落)	セイタカアワダチソウ群落(70902C)
⋮	⋮	⋮

別紙 (例)

凡 例

- | | | |
|---|---|---------------------|
| 1 |  | 常緑広葉樹林 (シラカシ林) |
| 2 |  | 常緑針葉樹林 (アカマツ林) |
| 3 |  | 落葉広葉樹林 (クヌギ・コナラ林) |
| 4 |  | 常緑針葉樹林 (スギ植林) |
| 5 |  | 人工草原 (ゴルフ場) |
| 6 |  | 雑草群落 (セイトカアワダチソウ群落) |
| 7 |  | 緑の多い住宅地 |

〈別添 2〉

動物生息空間（ビオトープ）分布図作成要領

動物生息空間（ビオトープ）分布図は、相観植生図、空中写真等を参考にしながら、動物の生息空間及び移動の際の通路となり得る森林、草地、巨木、緑の多い住宅地、河川敷等並びに動物の移動を阻害する人工構造物等（道路、鉄道等）を1/2.5万地形図上に表示することにより作成する。図の作成に当たっては、以下の要領によるものとする。

1. 相観植生図の基図には、最近の国土地理院発行の1/2.5万地形図を使用する。
2. 相観植生図をもとに、優占種による細分を行わない相観のみによる植生区分（常緑広葉樹林、落葉広葉樹林等）の分布を表示する。表示に当たっては、相観植生図凡例のうちから典型的な植生のものを適宜選定し使用する。
3. 第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査による巨木の位置を径5mmの緑色に着色した丸印で表示するとともに、可能な限り湧水地点を把握し、その位置を径5mmの青色に着色した丸印で表示する。
4. その他、動物の生息空間として重要な環境について適宜凡例を作成し表示する。
5. 動物の移動を阻害する人工構造物（道路、鉄道等）を表示する。
 - ①道路（幅員5.5m以上のもの）については、地形図上の凡例を赤色に着色する。


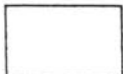


===== ← 2本の表示線の間を赤色に着色
 - ②鉄道については地形図上の凡例を幅3mmの黒線で置き換え（鉄道の記号上をなぞり）、表示する。
 - ③動物の移動を阻害するその他の大規模な人工物が地域内に存在する場合には、適宜凡例を作成し表示する。
6. 作成した図面には、使用した凡例の一覧表を添付する。

(別添 3)

地形改変図作成要領

地形改変図は、地形図、空中写真、開発事業の資料等をもとに、生態系総合モニタリング地域の大規模な地形改変の状況を以下により表示し作成する。

1. 相観植生図の基図には、最近の国土地理院発行の1/2.5万地形図を使用する。
2. 地形改変地の区域の境界は、0.5mm程度の黒線でくくり表示する。
3. くくり線でくくられた各地形改変地を以下の凡例により表示する。

①切土地		… 地を赤色で着色
②盛土地		… 地を赤色で着色
③水面埋立地 (干拓地を含む)		… 地を茶色で着色
④水没地 (ダム等により 水没した土地)		… 地を青色で着色
⑤河川の流路変更	(変更前の流路) ... 青色の線
	————	(変更後の流路) ... 青色の線

4. その他、以上の凡例によらない大規模な地形の改変については、適宜凡例を作成し表示する。

〈別添 4〉

土壌動物調査実施要領

I. 本調査では、野外で肉眼採取の可能な「大型土壌動物」を対象とする。

II. 重点モニタリング地域内の典型的な自然環境を有する地点、5箇所において以下の調査方法により調査を実施する。

III. 調査方法について

1. 採取法

- ① 1本のひもに50cmおきに結び付けた5本の棒（割箸等）を順次地面に突き刺して、50cm四方の枠を設定する。
- ② ひもに沿って包丁を垂直に差入れ、土壌に切れ目を設定する。
- ③ 枠内の落葉、落枝、腐葉土を素早く手でかき集めて、ポリ袋に入れる。
- ④ その下のやや硬い土を深さ10cmほど移植ごてで掘り取り、別のポリ袋に入れる。
- ⑤ 二つの袋を明るく平らで作業のしやすい場所に持ち出す。
- ⑥ 地面に白いビニール布をひろげる。
- ⑦ 袋の中の落葉や土を少しずつ取り出して園芸用ふるいに入れ、ビニール布の上でふるう。
- ⑧ ふるいの編目を通過して落下したものを注意深く見つめ、動くものがあったら、ピンセットでつまんでアルコールびんに入れるか、吸虫管で吸い取る（吸虫管にたまった虫は、あとで一括して70℃入りびんに移す）。
- ⑨ ふるいの中に残った落葉落枝などをビニール布の上にあけ、網目を通らなかった大きい動物を探しだす。
- ⑩ ビニール布の上の土や落葉を捨てる。
(⑧～⑩の作業を何回も繰り返し二つの袋の落葉や土を全てふるい終える。⑤～⑩の作業は必ずしも現場で行う必要はなく、室内に持ち帰ってから電灯照明の下で行ってもよい。ただし、土壌資料採取日または、その翌日中には作業を完了するようにしたい。)

[必要な道具] ひも2.5m、割箸3膳、せん定場差味、包丁（または果物ナイフ）、移植ごて、ポリ袋、園芸用ふるい（径30cm内外、網目5mm内外）白ビニールシート（90×1～2m）、ピンセット、吸虫管、70℃入りビン

2. 保存法

- 採取した動物は、80%のアルコール中に浸漬しておくとはほぼ半永久的に保存が可能であり、そのように保存を行えば分類同定の作業は、いつでも時間のあるときにとりかかることが可能になる。

3. 分類同定

- ①ビンの中の動物、泥、ゴミ、アルコールを全てシャーレの中にあける。
- ②動物だけをピンセットでつまみ、動物体に付着した泥などをゆすり落としてから新しいアルコールをいれた別のシャーレに入れる。
- ③同じ種類、同じ仲間と思われるものを、アルコール入りシャーレの中でそれぞれまとめて寄せておく。
- ④シャーレに入れたまま（動物を取り出して乾かしてはいけない）、実体顕微鏡またはルーペで観察し、別表及び別図に基づきどの群に属する動物かを判定する。
（この調査では、主として目（もく）までの大まかな分類レベルの判定を目的としている。）

[必要な道具] 径9 cmのシャーレ2～3組、80%エチルアルコール、先尖ピンセット
実体顕微鏡(30倍で十分) またはルーペ、照明装置(スポットライトが最適)

4. 結果の取りまとめ

- ①調査結果（動物群名、群ごとの個体数等）については、調査票〔様式3〕により取りまとめる。
- ②調査票には、採取地点をできるだけ詳細に示した図面を添付する。
- ③採取地点（採取前の状態）の写真及び採取地点周辺の環境の状況を示す写真を撮影し、取りまとめる。

表1 大形土壌動物のおおまかな類別検索表

足がない	かたい殻に入っている	陸 目					
	かたい殻を持たない	体はヒモ形	体長3cm以上、ピンク～赤褐色	ミ	ミ	ズ	
			体長1.5cm以下、白色	ヒメ	ミ	ミ	ズ
		体はワジ虫形、筒形	頭がある	甲虫(幼虫)			
頭がない	ハエ・アブ(幼虫)						
足が3対	はねがない	尾 端	3 本	イシノミ			
			2 本	ナガコムシ			
			1 本	筒 状	アザミウマ		
				先が2本に分かれる	トビムシ		
		突 起	な し	触 角	ひじ状に折れまがる	ア	リ
					じゅず状	シ	ロ
				目立つが6節しかない	トビムシ		
					微小な棘状	甲虫(幼虫)	
		はねがある	はねは羽毛状	アザミウマ			
				はねはかたい 朝ぼね状	はねは短かく、腹がかなり露出している	体は細長い	ハネカクシ
					体は短かい	アリツカムシ	
			はねは腹全体をおおう		左右のはねは中央で縦一直線に相接する	口吻が長く突出する	ゾウムシ
	口吻は長く突出しない				甲 虫 ゴミムシ		
	左右のはねは斜めに半分重なり合う		カメムシ				
足が4対	体にくびれがあり、速く走る	クモ					
	体にくびれがなく、ゆっくり歩く	腹に節がない	ダニ				
		腹に節がある	足は体長以下	カニムシ			
	足は体長と同等か、それ以上		ザトウムシ				
足が7対	体は円筒形	ガ(幼虫)					
	体は上下に扁平	ワラジムシ					
	体は左右に扁平	ヨコエビ					
	体はカマボコ形	ダンゴムシ					
足が8対 ～15対	足は1体節に1対	尾端に木の芽状突起	コムカデ				
		尾端に長い足	イシムカデ				
	足は1体節に2対	ヤスデ					
足が21対 ～23対	足は1体節に1対	オオムカデ					
	足は1体節に2対	ヤスデ					
足が31対 以上	足は1体節に1対	ジムカデ					
	足は1体節に2対	ヤスデ					